

近畿学校保健学会通信

No. 14

昭和43年8月1日

第15回近畿学校保健学会事務局

大津市京町3丁目6~25

滋賀県教育委員会事務局 保健体育課内

TEL 大津(07754)(2)-1121

学校保健学会の特色を生かそう

滋賀県学校医部委員 谷 口 正

本学会も今年で15回を開く事になりました。義務教育を終えて高校へ進んだ年頃になったわけです。小学校時代、中学校時代と色々と苦心苦労も多かった事と思われますが、高校生となれば一応将来の希望も確定する年齢である事から、本会も従来の伝統や行きがかりを棄て、本学会の特色を生かし将来の発展のビジョンを持ちたいと思います。一昨年近畿学校医連合会から近畿は一つの旗のもとに、近畿学校保健大会の開催が唱え出されましたが、府県市の教育委員会との関係もあり今の処早急に開かれそうもありません。

本学会参加者は校長、保健主事、養教、校医、歯科医、薬剤師、それに研究機関、大学の諸先生と学校保健に関係ある者を網羅しています。近畿の学校保健関係者を本学会の名のもとに集められる会があるならば実質は近畿学校保健大会であり、それに研究機関と現場関係者との接点となる本学会の特色を兼備して行くならば本会の将来はもっともっと発展して行くものだと思います。只本会は近畿各府県市が廻り持ちの担当をして会場を借用し、整備する事になっているので、毎年会員数が浮動し、年間の固定会員を摑む事が困難です。従って経済的に非常に不安定な会である事は役員の方なら充分承知のはずです。本会が発展する為には先ず固定会員を維持する事が先決と思われます。一定の固定会員の会費を基準とし、それに当日参加の普通会員の会費で一応会が開かれる様にしたいものです。

先に述べました様に本学会の特色は学校保健の現場と関係大学研究機関とが互に接し現場の問題をひっさげた関係者が関係大学に指導を乞い、大学自体は協力検討の上で現場に返し指導する。この事の橋渡しを行う処に本学会の意義があると思います。従って研究発表も立派に完成されたものの発表も結構ですが、未完成で壁に直面している様な問題も示し、適当な指導者の援助を仰ぐ事の方がより有意義ではないかと思われます。現場の関係者が気軽に大学研究機関の諸先生と話合い指導を仰ぎ、大学関係の先生は又直接に現場の生の声を掌握する接点の会合として有意義に活動したいものと思います。以上の観点より来る15回大会では今県下(主として大津市)で取り組んでいる発表のシンポジウムに他府県市の関係者も参加して頂き現物の姿を放送し、大学研究関係者の御指導を賜りたいと思っています。懇親会も手軽にし多数の方々の話し合いの場としたい考えです。

15回大会を滋賀県学校保健会がお受けしましたので、本要旨の一端を実行した会にし、今後の進展の足場としたい念願です。関係者各位の御協力を御願いします。

今こそ叫ぼう

大阪教育大学教授 楠 原 栄 一

知育學習超重点主義の現在、学校教育の中で健康教育は価値のないものであろうか。

最近、私は学校保健関係者と健康や保健教育の重要性・必要性について語り合う機会が多い。すべての人々は肯定してくれる。しかしながら肯定の程度は全く観念的に健康は大切だという認識の範囲を出ない人が多いことを痛感させられる。所謂現場でその掌に当らねばならない教職員は勿論、殊にその専門職の校長・保健主事や養護教諭にしても、その教育に対する考え方や方法論になると千差万別である。最近の学生で人間の尊厳性の価値観を持たず、他の動物と差がなく、弱肉強食の観念をもっている者が少くない事が調査の結果判明した。また教育的・社会的不適応者並びにその潜在者は児童で30~35%、中学生で30%、高校生で15%、学生で13%もあることが実態調査で明らかになっている。

ここ数年来、教育の曲り角、教育とは全人形成なりと呼ばれてきたが、上述の数字や現実の反映からみるとその叫びにうつろな響がある。何か心棒が抜けているのではないか。若し、健康な教育の土台であるから教育以前の問題であるという考え方方に終始しているならば近視眼的である。今日、健康の日指す所は心身（すなわち自己）がよく、相手によく、社会にも完全によりよくある状態であると説く。そのような状態への教育が健康教育であり、幸福への道、人類の発展がある。従って知育のみが人間形成に必要にして唯一のものではない。德育も体育も共に必要な材料であって軽重の差はなく、これらを人間の発育発達の栄養刺激として資するところに教育の価値があるのである。健康教育は広義には全人教育そのものである。保健学習は知育であり、德育の基盤でもある。

健康教育の方法論になると WHO 保健憲章の健康の定義の下欄に、それをすすめるためには「医学的知識・心理学的知識と両者の関連知識を土台にして駆使する所に始めて可能である」と銘記されている。また、すでにこの思想は明治22年、森鷗外によって教育の根本理念として時の衛生新誌に次のように喝破されている。

「教を授くるは教育的一大区域にして、其要は意ありて人智の発育を嚮導するにあり。これに任ずるものは須く心の教を受くるものの天性と、その智の発育する方向を示せる規則と、この発育の目的とに留むべし」。そして、「教を受くるものの天性を知るには、之を大にしては生物学あり、之を小にしては人身の解剖と生理あり、之に依りて児体の機能に通曉すべし。児の発育すべき方向を示す規則は、人身の作用にのみ依るべきものなれば、生理の学を棄てて外に求めん様もなし、若し夫れ児の発育の目的に至りては、渠の一個人的の性と能とを成るべく充分に發揮せしめ、後來人世の開明の運動に与りて力を出すことの多きを望むなり」……

要するに、教育の基盤は児童の心身の発育に通曉して出発し、全人形成・健康追及の向うものでなければならない。我々は大いにこの先達の名言を咀嚼含味することから始めるのが必要である。今日、現場では多くの問題点をもっている。健康管理についていえば検診は実施するが管理指導には手がない。よしんば身体の健康管理は出来ても精神面になるとお手あげの状態である。学習の面でも現行中学の保健学習2年間70時間制を1年間35時間に半減することが妥当だと有力な主張があると聞く。

昨今学習指導要領が改訂されつつある秋、今こそ明日への教育像を熟考しなければならない。健康教育の理解、健康教育の重要性と必要性を叫ぼうではありませんか。

(1968. 7. 19)

健全な精神と健全な肉体

神戸大学教育学部教育衛生学教室教授 佐 守 信 男

昭和43年7月10日、この原稿の御依頼を受けて執筆している日であるが、今朝の新聞に次のようなことが報じられている。

「京大卒の24歳になる銀行員が、上役である高校卒の32歳になる預金副係長を、去月14日未明、彼が銀行内で宿直中にバットでなぐり殺した。調べによると、犯人は、自分が京大卒なのに、高校卒の部下としては

仕事をしていることにかねてから不満をもっていたという。」

この犯人を、「健康」な男とは誰もいまい。そして、犯人は京大卒というからには、小、中、高校の成績はよかったですに違いない。

○

「心身ともに健康な国民の育成を期さねばならない」と、「健康」が教育の目的であるということは、わが国の教育基本法第1条にもうたわれている。近代教育学の古典と考えていいイギリスのジョン・ロックの「教育に関する二、三の考察」においても、17世紀に、すでに、「健全な精神と健全な肉体」を、教育の目的として掲げている。健康が教育の目的であることは、洋の東西古今を問わず、誰でもがうなづくところである。

ところが、有名大学の卒業生や在学生が、健康でない行動をすることが目立つ昨今の状況から、学校教育で成績がよかったということは、「健康」を育成する教育効果があがったということにはならないことを示している。

○

学校保健は、健康を保持増進することが目的であると、誰でもがいう。

美しい琵琶湖に風渡る滋賀の都で行なわれるこのたびの第15回近畿学校保健学会において、ほんとうの意味での教育効果をあげることに、学校保健がどのようにアプローチできるかの糸口を見つけていただければ、教育の土俵のまんなかに学校保健を位置づけることができるじ、大変うれしいことであると、期待している。

溶連菌感染症から観た学校保健の諸問題

校医 本原貫一郎

学校保健の中に溶連菌感染症をとり入れるという事は、従来の学童検診を中心にして行われて来た学校保健に一つの変革をもたらした事を意味するものと言えよう。

これ迄の学童検診は身体計測という量的検診と、校医の外診を以てする表面検診とが主体となっていた。そのうちに学童結核検診として間接胸部X検診が行われる様になって陰影とは申せ始めて体内的検診が行われるということとなり、これにツベルクリン反応という学童体反応検診が併せ行われて、従来の学童検診に一つの深きを加えるに至った事は衆知の通りである。

然し学童検診で最も多数を占める扁桃腺肥大を例にとってみても、扁桃腺の肥大という單なる外診的な表面検診のみによって学童父兄を随分とゆすぶった事はあっても、その扁桃腺と関係のある続発的疾患である溶連菌感染症及びそれにつづく腎炎とか、ロイマ疾患とか後天性的心疾患等を考えての質的検診は耳鼻咽喉科専門校医は勿論一般校医さえもあまり触れてはいなかったし、また学童に最も屢々みられる咽頭及び扁桃腺炎に対しても咽頭菌検索や血液ロイマ検査は勿論のこと、最も簡単な検尿（蛋白、潜血）すら殆ど行われていなかった事も亦衆知の事実であった。特に進歩的な校医たちが行った学童心臓検診や貧血検査等も一般的に学校保健の中に必須として取りあげられるのは尚相当な時間を要するであろうし、その道は尚遠かと言わなければなるまい。

即ち従来の学童検診から竿頭一步を進めて、種々の臨牀検査を以てする集団検診の質的向上は、今日及び明日の学校保健にも当然採り入れられなければならないに拘らずその機運は未だ必ずしも動いていない様である。

こんな中で溶連菌感染症の問題を学校検診の中での学童検診に取り入れ、検尿は勿論、咽頭菌検索、血液ロイマ検査等を併せ行って、腎炎や後天性心疾患に取り組んで来る様になった事は、今日の学校保健に直

接役立っただけではなくて、現在の学童が大人となった遠き将来に於て、高血圧や卒中や心臓病の様な所謂成人病の予防にも大きな関連をもつものと言えよう。

これが学校保健の中に溶連菌感染症のも一つの大きな意義であろう。

その第二の意義は、今日この溶連菌感染症を学校保健の中で強調することとはやがて学区地域の扁桃腺及び咽頭疾患への注意を促すことに連り腎炎、ロイマ疾患、心臓疾患等への关心を著しく高めてゆくのみならずひいては地区住民の高血圧疾患や脳卒中や心臓病等の所謂血管症に由来する成人病の予防と治療に極めて大きな成果を期待し得ることと言えよう。

第三の意義は更に、従来から内科、小児科、眼科、歯科は校医として学校保健の中に正式に認められているのに、耳鼻科は眼と共に知識の門である耳を司っているにも拘らず尚正式に認められていない事は反省検討の要もありまた不思議な事とも言わなければならない。そして溶連菌感染症がこの不合理を解消することとなるかも知れない。

肥大した扁桃腺を指摘して、その切除が唯一の対策であるかの如き錯覚を与えたる、また学童が最も屢々くりかえす咽頭疾患を診療しながら咳嗽と塗咽が主な治療法であるかの様な印象をのこしたりするのみで、敢えてこの溶連菌感染症を予防医学的な考え方を以て進んで取り上げなかった事が耳鼻科校医の存在価値を正しく評価しなかったり低く評価したのみか、学校保健の中に耳鼻科校医必須という真剣切実な考え方にならなかつた所以ではなかろうか。

兎もあれ今日速にこの学童溶連菌感染症を耳鼻科校医でも大きく採り上げてその予防、治療、続発諸症状等の指導対策を打出すことは耳鼻科校医の専門権威活動の一つではなかろうか。

斯くすることによって耳鼻科校医も大きく評価され学校保健の中に耳鼻科校医必須の機運が醸し出され、溶連菌感染症などの問題も正しく取り扱われ、採り上げられる様になって来るにちがいない。

学校保健は勿論その他の集団検診の中に、今後種々の臨床検査を取り入れて来る様になると校医も然ることながら種々の技術者を要することとなり、それに応える体制の検討という問題も出るであろうし、またその検査に要する費用の対策も考えなければならないこととなる。

これが為には校医の方では医師会員全員を以てする全員校医制の中に、専門検診班を編成してその専門医活動を行う一方、地域の臨床検査技師会やその施設等をも生かしてこれの協力活動を期待する等を考えなければならない。

そしてこの検診に必要な経費は出来る限り行政に載せて公費を以て処理する行き方が賢明である。何となれば斯かる検診活動こそ今日及び明日の地域に無限の大きな成果をもたらす唯一の賢策であるのであるからその事を考えれば、今日の少々の費用位何でもあるまい。

ただ注意を要することは学童検診がこの様に種々の臨床検査を一つの方法として行われる様になると、その検査所見の評価判定に行き過ぎが出たり、考え方の混乱を招いたり、不安や危惧が生じて肝心の学校教育生活を素す結果が出たり、地域の市民生活に動揺が生じたりしては大変であるから、その検査が却って禍になつたりマイナスになつたりせぬ様に注意することは一番大切な事である。（大津市長等小学校校医）

肥満児の問題

大津市医師会学校保健部長 植村 良雄

昭和41年より、大津市医師会で学校保健を担当する事になり、それ迄近畿学校保健学会にも出席していなかったのが、13回の大坂、14回の奈良と続けて参加いたしました。今回滋賀県で学会開催という事になり、シンポジウム形式をとるとの構想がありましたので、前2回に肥満児の演題があったのを思い起し、持ち出してとりあげられたのはよかったです、その代りに司会の大役をおしつけられる事になりました。どう

ていその任ではなく辞退いたしましたのですが、幸い京大小児科より助言者の参加が得られる事になりましたので、司会だけならばと思直し、あつかましくもお引き受けした様な次第です。よろしく御協力下さいまして、シンポジウムに多数参加下さる様お願ひいたします。

肥満児の問題については、近年小児科領域の学校保健関係でしきりに論じられ、多くの調査報告がある他ジャーナリズムも之をとりあげ、紙上いろいろ対策が述べられております。戦中・戦後にはみられなかったものであり、食生活の質的・量的变化と重なって生活様式の歐米化が進んだためにみられるという事でしょうが、大津のような小都市にも相当数の肥満児が見られる様になりました。

昨年秋、私達は市教育委員会や養護教諭会の協力を得て、その実態調査を行ない、ささやかながら資料をあつめ、今それをとりまとめております。又近く保健センターが市内に設置される運びとなりますので、肥満児対策としての保健指導を推進したいものと考えております。

学会当日、諸先生方よりいろいろと御教示・御指導賜りますよう、お願いする次第でございます。

第15回 近畿学校保健学会開催要項

1. 日 時	昭和43年9月8日(日)午前9時より	
2. 会 場	滋賀県厚生会館(国鉄大津駅下車徒歩5分 滋賀県庁前)	
3. 特別講演	学校の精神衛生について	元大阪大学教授 中 脩 三
4. シンポジウム	(1) 肥満児対策 (2) 溶連菌感染症	司会 植村 良雄 司会 本原 貫一郎
5. 一般講演		
演 題		発 表 者
・血液型(ABO式)集団検定における過誤率とその防止策について		滋賀大学教育学部 山田 一
・児童、生徒の集団検尿による保健管理と指導について		大阪教育大学 今井 英夫 外5名
・本校肥満児の実態と対策について		長浜市立長浜小学校 蒲生 芳子 外1名
・中学校における保健学習と生徒の保健自治活動との有機的関連の指導について		蒲生郡安土中学校 山本 隆男
・児童の自律神経緊張傾向 第28集		大阪教育大学P.S.M研究会 大阪市立平野小学校 相生 晃一 外4名
・児童の自律神経緊張傾向 第29集		大阪教育大学P.S.M研究会 大阪市立南百済小学校 寺田 幸雄 外4名
・安全体操を中心とした体力づくり		彦根市立佐和山小学校 門川 義信
・高校生修学旅行における疲労についての一考察		大阪教育大学附属高等学校 矢田 節彦
・滋賀県学童の心臓管理	14 - 5 -	大阪教育大学保健学教室 上林 久雄 滋賀県医師会学校医部 大西 豊彦

・小学校児童の家庭内生活時間の調査 その2 睡眠時間について	大阪教育大学養護教諭養成所 須藤 勝見 外5名
・小学校内外傷の調査	大阪教育大学養護教諭養成所 仲井 正名 大阪教育大学附属天王寺小学校 滝 儀子
・小学校児童の家庭内生活時間の調査 その1 食事とテレビについて	大阪教育大学養護教諭養成所 山本 紀子 外5名
・大阪市立学校教室の空気(CO ₂)およびじんあい調査について	大阪市学校薬剤師会 庄司 繢 外2名

◎以上は7月20日現在の演題であり、なおほかに数題追加がある予定あります。

6. 会 費 300円 (但し評議員は500円)
7. 抄 錄 集 入用の方は8月20日までに会費をそえてお申込みください。
8. 懇親会 参加希望の方は会費1,000円をそえてお申込み下さい。 以上

近畿学校保健学会名誉会員、幹事、評議員名簿 (昭和43年8月現在)

名譽会員	故 伊良子光義	岩田 正俊	故 大島 明雄	千田 勇	竹村 一
伊賀 政雄	故 伊良子光義	岩田 正俊	故 大島 明雄	千田 勇	竹村 一
故 豊田 順爾	故 西 起三郎	長谷川 等	富士 貞吉	三浦 遼一	
幹 事					
大阪府					
伊東 祐一(大阪学大)	今井 英夫(大阪学大)	上林 久雄(大阪学大)			
柳原 栄一(大阪学大)	住吉 薫(大阪市教委)	高木俊一郎(大阪学大)			
館野 進(大阪府教委)	辻 勝流(大阪市教委)	長谷川等(大阪府保健会)			
富士 貞吉(常盤会短大)	藤井 すゑ(大阪市教委)	藤下 成周(大阪学大)			
細部新一郎(大阪市薬剤師会)	三隅 珠一(大阪府教委)	目黒 庸雄(大阪学大)			
山本 勝朗(大阪市大家政)	安藤 格(大阪学大)				
京都府					
奥 岩吉(京都市保健会)	川畑 愛義(京大教養)	合田 博(京都市教委)			
西田 義文(京都府校医会)	山岡 誠一(京都教育大)	山本伊豆子(京都市教委)			
米田 幸雄(京都教育大)	吉岡 文雄(京都女子大)				
兵庫県					
低守 信男(神戸大教育)	武田真太郎(神戸大教育)	竹村 一(芦屋大)			
戸田 嘉秋(神戸大医)					
奈良県					
橋 重美(天理大体育)	永井豊太郎(天理大体育)	中牟田正幸(奈良教育大)			
和歌山县					
川口 吉雄(開業医)	白川 充(和歌山医大)	千田 勇(和歌山县校医会)			
地元幹事					
大西 煙彦	白倉 一夫	井田貞治郎	山之内種清	本原貫一郎	植村 良雄
中沢 敏	谷口 正	片岡 慶有	本郷 節也	多田 一夫	佐藤 守

立木弥太郎	鶴沢 良一	佐治 博夫	吉川 貞江	山本 義男	寺田 周作
金森 定雄	細井 肇	林 正式	前川 信夫	安土京二郎	牧野 健士
奥村 忍	居村 直子	織田 愛予			

評議員

大阪府

伊賀 政雄	伊藤 祐一	今井 英夫	上延富久治	大坂 利	岡田 弘也
河田 稔	上杯 久雄	貴志 吉子	後藤 英二	紺屋 茂	柳原 英一
園 つるえ	高木俊一郎	竹内 和子	寺岡 政代	中井善一郎	西尾 伸一
野口 陽二	橋爪 鶴楠	橋本 滌子	長谷川 等	富士 貞吉	藤井 すえ
藤下 成周	細部新一郎	松山トシエ	見田堯己郎	日黒 康雄	森山 八郎
八木 常行	山口 龍元	古井 司	塙本 常明	森 茂一郎	加山寿美枝
山本 紀子	安藤 格				

京都府

上田雄佐武	大島 要	奥 岩吉	川畠 愛義	森下スミエ	立川 明
西田 義文	平井 新司	三浦 遼一	山岡 誠一	山本伊豆子	吉岡 文雄
米田 幸雄	渡辺嘉之助				

兵庫県

佐守 憲男	武田真太郎	竹村 一	戸田 嘉秋		
和歌山県					

白川 充	千田 勇	玉置 辨吉	藤田 利雄	笠松 勇次	川口 広
------	------	-------	-------	-------	------

地元評議員

大西 輝彦	白倉 一夫	井田貞治郎	山之内種清	本原貫一郎	植村 良雄
中沢 敏	谷口 正	片岡 廉有	本郷 節也	多田 一夫	佐藤 守
立木弥太郎	鶴沢 良一	佐治 博夫	吉川 貞江	山本 義男	寺田 周作
金森 定雄	細井 肇	林 正式	前川 信男	安土京二郎	牧野 健士
寺井 三郎	奥村 忍	居村 直子	織田 愛子	渡辺 良央	今井 彦二
大原 重信	伊良子光孝	武田 守	舛田久一郎	田中 三郎	大杉 春夫
尾田 芳三	堤 泰雄	岩根 敬	佐々木誓海	竹下 茂夫	藤本 昭男
寺尾 義人	饗場太喜雄	下村 清文	北村真一郎	北村 弘	小川捨三郎
高田 恒	西田 武郎	桂 基嗣	有馬 和弘	久木 竹久	西村彦治郎
田村 治雄	大北 正史	三上 俊秋	辻 亨志	栗津 恵弘	米倉 義雄
三浦 義一	杉橋 義郎	谷沢俊太郎	奥村 茂	川端太四郎	吉田 弘治
今井 彦平	野口 保	中村 誠一	速水 昭介	北村 徳雄	小梶正二郎
野一色佐八	野口 秀寛	桂田 武次	下村 静波	平井 由夫	松田 哲一
椋本 章充	大塚 伝蔵	桂田惣右衛門	松居 芳雄	吉川 善造	久保田仁三
川原林正次	久野 真雄	金森 松野	前田ヤスエ		